

事業継続マネジメントシステム

■TOA-BCPを策定

予測が困難な大災害発生時にも、TOAグループの重要な事業活動が中断することなく、また一時中断した場合でも、可能な限り短期間で事業を再開し、社会基盤の維持・継続に貢献できるように、2007年度に安否確認システムを導入し、日建連の事業継続ガイドラインを参考に全社の事業継続計画（TOA-BCP）を策定しました。

また、防災の日にあたる9月1日には、作成途中の事業継続計画（案）が実行可能な内容かどうかを確認するために、東京湾北部を震源とする首都圏直下型地震（マグニチュード7.3、震度6強）を想定し、模擬災害訓練を首都圏エリアの支店および本社で実施し、同システムの実行性の検証を行いました。

■安否確認システムの導入

震度5強以上の地震発生時に、全社員の安否を携帯メール等で確認できるシステムを導入しています。

■TOA-BCPの基本方針

大災害発生時には、まず社員とその家族の身体・生命・財産の安全を確保します。そしてお客様の施設や社会基盤の復旧支援を最優先します。また、二次災害を食い止めるため緊急対応を適切かつ迅速に行ない、できるだけ早く会社の事業を復旧し、再開に全力を傾注します。

■大規模災害時におけるBCPマニュアル類

TOA-BCPは、内閣府および日建連のガイドラインに準拠して計画を策定し、各種マニュアル類を整備して、災害発生時にはいつでも対応できるように全社版を策定しました。

- ①大規模災害時における事業継続マニュアル
- ②危機管理対応組織業務マニュアル
- ③事前対策マニュアル
- ④社員行動マニュアル
- ⑤初動対応マニュアル（社員・災対本部編）
- ⑥復旧マニュアル
- ⑦本社災害対策本部設置マニュアル



社長を本部長とする本社災害対策本部訓練の様子

■PDCA サイクルによる BCM

2008年度からは、BCM（事業継続マネジメント）としてPDCAサイクルを回して、上記システムの改善および維持運用を図っています。

MY OPINION — 従業員の声 —

変わらないことの大切さ

北陸支店 柏崎工事事務所 宮ノ下 修学



入社して十数年。建設業を取り巻く環境も大きく変貌した。新入社員頃の机には、パソコンがなかったけれども、今は鎮座。携帯電話で業務連絡を始めたのはいつからだろうか？ 冬場、現場の破材を集め、暖をとった時代が懐かしい。

ISO・安全書類・環境側面・現場事務所の美観。「関係法令が変わって」、「時代のニーズに応じて」、「社会の風潮に合わせて」。これらに対応するため変化を遂げた事柄は、枚挙に遑（いとま）がない。時勢に適応した業務の「変革」、「変化」は、社会的責任を果たすことに大きく寄与している。

こうした動きのなか、現場には昔から変わらないことがいくつか残っている。着工前のあのドキドキ感と緊張感は昔も今も変わらない。休憩中に作業員さんが、うまそうに吸う煙草。紫煙は今でも眼に沁みる。作業服の汗臭さ。変わってほしいが変わらない。たまに見かけるおじいちゃん。あの時の優しい言葉は忘れない。別れ際、握手をし肩をポンと叩いてくれた、手の大きさと子供のようなあの笑顔。

普通のことなのかかもしれない。何気ないことなのかかもしれないけれど、これからも変わらないだろうし、変わってはいけないことのような気がする。「変わってはいけないこと」を大切に、温かく見守り保持する。小さいことかもしれないが、社会的責任をそんなところから始める現場を目指したい。

